

科目名	教育実習Ⅱ Teaching Practice II						
科目担当者	笠木 秀樹 KASAGI Hideki / 中本 幹生 NAKAMOTO Mikio / 渋山 昌雄 SHIBUYAMA Masao / 小野 創太 ONO Sota						
単位数	3	配当年次	4年	授業形態	実習	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目]				ディプロマポリシーとの関連	(5)(6)	
授業の概要	<p>本授業は、教員免許取得の要となる科目として位置づけられる。具体的には、次のとおりである。</p> <p>①教育実習に向けての事前指導として、実習校研究、目標設定を行い、教育実習に向けた姿勢を確認する。</p> <p>②高等学校での実習、</p> <p>③実習後の反省と総括 教育実習報告会において教育実習での体験や感想を発表するとともに、実習生同士で教育実習を検討し、振り返る。(学生によって教育実習の時期が異なるため、前期と後期に計2回に分けて実施する)なお、必要に応じて教職課程担当教員が指導を行う。</p>						
授業の到達目標	<p>本授業の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①教育実習生として、意識を持って、教育実習の達成目標を設定することができる。</p> <p>②教育現場で、教師の多様な教育実践・実務を体験することを通して、将来の教師として教科指導、生徒指導等の基礎的な力量を高めることができる。</p> <p>③将来の教師としての責任と自覚を身に付けることができる。</p> <p>④教育実習前に設定した目標が達成について、その成否と要因を説明できる。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション(講義のねらい、内容、評価)					
	2	事前授業①ー現状の力量を知る					
	3	事前授業②ー教育実習に向けての心構え					
	4	事前授業③ー教育実習校研究①					
	5	事前授業④ー教育実習校研究②					
	6	事前授業⑤ー教育実習校研究③					
	7	事前授業⑥ー教育実習校研究④					
	8	教育実習① 教育実習 HR 活動					
	9	教育実習② 教育実習 学級経営					
	10	教育実習③ 研究授業 教科					
	11	教育実習④ 研究授業の振り返り					
	12	事後授業①ー夏季教育実習報告会					
	13	事後授業②ー夏季教育実習意見交換会					
	14	事後授業③ー秋季教育実習報告会					
	15	事後授業④ー秋季教育実習意見交換会					
授業外学修 (事前学修)	実習校の情報収集、目標設定を行い、発表に向けての準備を行うとともに、教育実習に向けて、教材研究、生徒指導の在り方等について事前準備を行う。(毎週2時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	事前発表に向けた準備(レジュメ作成)、教育実習後には目標を振り返り、教育実践における成果と課題について把握する。(毎週2時間程度)、教育実習(80時間)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	教育実習校による評価				40%	①②	
	教育実習記録等の提出物				20%	②③	
教育実習前後の発表(発表内容、取り組み姿勢等)				40%	④		
成績評価基準	<p>秀:(評点90点以上)到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優:(評点80点~89点)到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良:(評点70点~79点)到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可:(評点60点~69点)到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可:(評点60点未満)到達目標に達していない場合</p>						
教科書	なし						
参考文献	適宜示す。						
その他	教育実習は、いうまでもなく教育現場の多大な負担と協力のもとに行なわれる。したがって、教育実習に行く学生は、しっかりと心構えで実習に臨むことが求められる。なお、教員採用試験を受験することが望まれる。						